

別紙標準様式（第7条関係）

会 議 録

会 議 の 名 称	平成28年度 第3回 枚方市スポーツ推進審議会
開 催 日 時	平成28年9月2日（金） 午前10時00分から 午後12時05分まで
開 催 場 所	枚方市市民会館 第4会議室
出 席 者	会長：高見委員 委員：荒木委員、岩井委員、齊藤委員、佐藤委員、谷口委員、 西邨委員、浜田委員、福島委員
欠 席 者	副会長：木村委員 委員：寺西委員、堀口委員
案 件 名	1. 開会 2. 枚方市スポーツ推進体制の現状と課題について 3. 推進施策について 4. その他 5. 閉会
提出された資料等の 名 称	○資料1 枚方体育協会事業報告書 ○資料2 スポーツ推進委員事業報告書 ○資料3 レクリエーション協会事業報告書 ○資料4-1 アンケート調査様式（市民用） ○資料4-2 アンケート調査様式（関係団体用） ○資料4-3 アンケート調査様式（スポーツ推進委員用） ○資料4-4 アンケート調査様式（スポーツ指導者用） ○資料5 アンケート集計について ○資料6 推進施策の考え方 ○参考資料 ITを活用した健康生涯活躍のまち及び ヘルスケアビジネス創生事業について
決 定 事 項	・次回審議会の開催日時は10月21日午後2時からとする。
会議の公開、非公開の別 及び非公開の理由	公開
会議録の公表、非公表 の別及び非公表の理由	公表

傍聴者の数	1人
所管部署 (事務局)	社会教育部 スポーツ振興課

審議内容	
<p><b>1 開 会</b></p> <p>高見会長：挨拶</p> <p>それでは最初に、本日の出席委員と傍聴者の報告と合わせて資料の確認等を事務局よりお願いしたい。</p> <p>事務局：本日の出席委員は、12名中9名に出席いただいている。枚方市スポーツ推進審議会条例第7条第2項に規定する2分の1以上の出席を満たしており、この会議が成立していることをご報告する。また、本日の一般傍聴者は1名受け付けている。</p> <p>資料の確認</p> <p>高見会長：前回審議会では、事務局より枚方市のスポーツ推進体制の現状と課題について説明をいただき、フリーな形で各委員からご意見を伺った。意見の中では、スポーツの定義であるとか、子どもの体力・運動能力・運動習慣の改善、スポーツと健康、スポーツ施設の現状、スポーツチームと地域の関わり等について、多方面からご意見をいただいた。また、前回時間がきてしまい審議途中になった議案もあるので、早速審議を始めたいと思う。</p> <p><b>2 枚方市スポーツ推進体制の現状と課題について</b></p> <p>高見会長：事務局より説明願いたい。</p> <p>事務局：本日の審議会だが、はじめに前回の引き続きとして枚方体育協会、スポーツ推進委員、レクリエーション協会の事業についてご意見をいただき、その後、報告になるが市民等を対象としたアンケートについて説明させていただく。最後に「推進施策について」ご意見をいただきたいと考えている。大きな視点や細かい事業レベルの意見でも構わないので、ご意見をお出しいただくようお願いしたい。次第2「枚方市スポーツ推進体制の現状と課題について」だが、前回の審議会で審議が途中になった資料1、資料2、資料3については、前回配布資料と同じものである。また、資料の説明は前回させていただいているので省かせていただき、論点の説明をさせていただきたい。</p>	

### 論点説明

高見会長： それでは、資料1「枚方体育協会事業報告」、資料2「枚方市スポーツ推進委員事業報告書」、資料3「レクリエーション協会事業報告書」についてご意見ご質問等をお受けし、その後にアンケートの説明を事務局からいただきたいと思う。資料1から資料3について、何かあるか。

福島委員： 資料2の枚方市スポーツ推進委員だが、「校区のスポーツ推進委員がない校区が4校区ある」と記載されている。1校区あたりの定員は決められているのか。

齊藤委員： 各小学校区45校区のコミュニティ協議会会長の推薦によって各1名、それと教職員の自薦の方や大学の学生、体協のスポーツ経験者が構成員になっている。

福島委員： 特に何名というのは。

齊藤委員： 校区からは1名で、そこに体協の方等がいれば2名になることはあるが、原則コミュニティからは1名である。

高見会長： 他にあるか。

谷口委員： ここに書いてあるように色々な事業をさせていただいているが、枚方市ならではの位置付けられる事業があればいいと思う。

西邨委員： 枚方独自というのはなかなか難しい面もあると思うが、まずうちの宣伝をさせていただくと、団体名が公益財団法人枚方体育協会ということで、一般の法人から今から6～7年前に公益に移行した。日本全国で体育協会と称する団体が公益を取ったのは、枚方が最初である。これも業者で取ったのではなく、自前で職員が努力をした。何故かと言うと、公益性を保とうということで、大阪府下の衛星都市で取っているのは、唯一枚方だけである。他市では、自前の職員はいない。役所の職員が体協に出てきているので、独自の事業をされているところが少ない。体育協会に加盟されている団体の調整役のような形でされているが、私どもは12～13人の専門の職員がいる。もう一つ、総合型地域スポーツクラブもやっているが、これも多種目で総合型のスポーツをやりたいというのは、あまり多くないと思う。総合型スポーツは単一種目が多い。あとは、独自の色々な事業をさせていただいている。主には後から出てくると思うので、その都度聞いていただければ説明できると思う。

谷口委員： 私の意見は少し観点が違うのかもしれないが、例えば枚方を大きく4つぐらいに分けて綱引きをすとか、老若男女問わず参加して地区のブロック別大会のような、大雑把な発想しかないが、市が盛り上がるイベ

ントがあればということである。

西 邨 委 員： 地域に分けてということは難しいが、体育の日はスポーツ推進委員と一緒にやっているし、11月23日の祭日は総合型スポーツクラブのフェスティバルということで、各小学校で体力測定や色々な項目でやっている。今おっしゃるように、各地区対抗というのは今のところやっていない。

高 見 会 長： そういう面でのスポーツ推進委員の取り組みというのは。

齊 藤 委 員： スポーツ推進委員として、枚方市独自のニュースポーツを7～8年前に開発した。機会があればそれを披露して、試合をして楽しんでもらうことはやっている。

事 務 局： いわゆるシンボリックスポーツという言葉がある。地域のシンボルとなるような競技で盛り上がるというアプローチもあると思うが、枚方市の規模で、或いはスポーツ種目の規模で、そういったものが定着するという話にはなっていない。ただ冬の風物詩と言うか体協の主催事業で、毎年「新春走ろうかい」というイベントを淀川河川敷で開催している。これは非常に大きなスポーツイベントで、参加者も非常に多い。ただ私どもから枚方市のスポーツの現状を見ていると、何か1つに集中特化した形での展開と言うよりも、幅広いスポーツ団体が色々な大会をされている。体協の平成27年度実績資料の3ページに「スポーツ大会事業」がある。枚方市の受託事業として春季・秋季の総合体育大会の報告がある。27種類の競技種目で、大会回数は50回以上、参加者が延べ9,890名、1万人規模である。この開催経費として市から体協に運営を委託しており、総合体育大会等の事業運営、或いは小学生の陸上や駅伝大会、ラグビーカーニバル等全て含めて、委託金のレベルで平成27年度約3,600万円の公費を使わせていただいている。それだけ非常にすそ野が広く、多くの方が取り組んでおられて、北河内の大会に代表が出れば必ず良い成績を取るということで、競技水準も高い。そういう状況にあることが、枚方市の特色だと考えている。

高 見 会 長： 他にあるか。

事 務 局： 本日欠席されているが、堀口委員から総合型地域スポーツについてご質問をいただいているのでご紹介したい。

○堀口委員からの質問を紹介

西 邨 委 員： まず会員が減少傾向にあるとのことだが、増えはしないが横ばいか若干減っているという程度だと思う。構成員としては、一般成人の方、子どもでも登録されている方、特に子どもは小学生の陸上のスクールがあり、

4～6年生を対象にしている。6年生が卒業すると次の4年生が入ってくるが、ご存知のように生徒数自体が減っているの、その辺で若干人数が減っていると思う。増えない原因としては、総合型スポーツクラブを運営する場所が、松下のスポーツ施設をかなり使わせてもらっている。そこのテニスコート、体育館を利用させてもらっているが、どうしても活動場所が一極集中型になってしまうので、特段人数が増えにくい。t o t oの助成金についてだが、総合型スポーツクラブ1つの運営でt o t oに申請すれば、補助金がおりてくる可能性はある。ところが、今現在枚方体育協会の中に総合型スポーツクラブがあるので、それで申請をしても補助金は体育協会におりてくることになるので、t o t oのほうでそういう団体にはおろせない。1つの運営団体にはおろすが、その上位団体の会計の名前もあるところに助成金はおろせない。だから、今現在t o t oの助成金申請はしていない。文科省の補助金を頼りにつくられて、3～5年の補助金がなくなると、その会はずぶれているのが現状である。とりあえず申請してもらえたらラッキーということで一旦申請はしているが、そういう理由で断られた。ただ、この中で「新しい施設等」というのは総合型スポーツクラブの範疇ではないと思う。

高 見 会 長： 他にあるか。

浜 田 委 員： 東部スタジアムができたが、今後どのようなスポーツ施設の計画があるのか。

事 務 局： 後の議論と重なるところがある。資料6に基づいて、施設整備を今後どうしていくのかというテーマがあるので、後程議論していただければと思う。

浜 田 委 員： 体育協会にお聞きしたい。グラウンドゴルフの参加者の割合は、校区コミュニティ等の団体が多いのか個人で参加されているのか。

西 邨 委 員： グラウンドゴルフ協会が運営しているので詳細は分からないが、大会の開会式等を見ていると個人で参加されている方が多い。ここに書いてあるのは、あくまでも市の総体だけである。これ以外にも加盟団体が独自にたくさんされている。

浜 田 委 員： 45校区の高齢者中心に結構増えている割に人数が少ないと思った。

西 邨 委 員： 多分それはそういう意味合いである。

事 務 局： ある種の公式大会である。19ページにある以外にもたくさんされているようである。

西 邨 委 員： 高齢者の中で一番人気があるスポーツである。

高見会長： 後程またソフト面については審議する時間があると思う。もし何かあれば、後程まとめて時間を取りたいと思っている。それでは続いて、資料4-1から5までのアンケートの説明を事務局からお願いしたい。

事務局： 資料4-1、4-2、4-3、4-4、5に基づき説明

高見会長： 事務局から説明があった資料4-1～4-4、5について何かあるか。

事務局： 堀口委員から、このアンケートについてどういう方法で分析しているのか、またその分析データはどのように活用しているのか、というご質問があった。アンケートの分析結果の今後の活用についてだが、市民対象のアンケートについては、男女でスポーツに対する考え方・意識、或いは実施状況にどういう違いがあるのか、また世代間でスポーツの実施状況やスポーツの嗜好等を分析する。調査目的にも書いている通り、スポーツに取り組みたいと思っているのに色々な理由や問題点があって取り組めていない方もいらっしゃると思う。特に何が壁になっているのかを分析・整理して、その問題点を解消し、できるだけ多くの市民にスポーツに関わってもらうための施策として、どういうものが考えられるのかについて検討していくための資料として活用したいと考えている。関係団体や指導者等のアンケートについては、活動する上での問題点・課題を抱えられていると思うし、そういった現状の洗い出しを行い、それを受けて市として今後どういう支援をしていけるのか検討していくための資料として活用していく予定である。

高見会長： 他にあるか。

谷口委員： 見方を教えていただきたい。集計2の「関係団体、体育協会、スポーツ少年団用」でいくと、調査数が30件である。問1の男性・女性の数字が出ていない。どう読めばいいのか分からない。

事務局： 2～4ページにかけての問1の「運営スタッフの人数」だが、まず2ページが男性の運営スタッフの人数、3ページ目が女性の運営スタッフの人数、4ページ目が男女合わせた合計スタッフの人数の分布状況を示している。この表の見方については、20歳代、30歳代、40歳代～というのは、運営スタッフとして関わっている方の年齢区分を表している。たとえば2ページ目の問1の運営スタッフ（男性）の場合、20歳代で運営スタッフとして関わっているのが30団体中8団体、人数が1～5人ぐらいの分布となる。「なし」というのは、20歳代のスタッフはいないということである。男性全体としては、60歳以上欄の下の「計」を見ていただくと、30団体中1～5人というのが約37%を占めているという状況を

表している。

高見会長： 他にあるか。

佐藤委員： 市民の集計結果の中に障害者105人のアンケートは入っているのか。

事務局： 入っていない。

佐藤委員： 障害者だけのものも後で出るのか。

事務局： 集計中だが、今後出していきたい。

高見会長： 市民用のアンケートのところで、性別や世代でクロスをかけて集計していくとの説明があった。他にこういう項目と項目を組み合わせ、その結果が出れば役に立つというものはあるか。

荒木委員： 市民の半分は60歳以上の高齢者なので、市民全体の意見を反映しているのかと言うと、決してそうではないと思う。そのあたりの分析を工夫していただきたい。例えば、問8のスポーツをしなくなった理由で「年をとったから」という回答が多いと思う。あとは、男女の違いについて知ることによって、どんな施策に反映できるのかを考えると、あまりそこにスポットを当てたところで意味がないのではないか。

高見会長： 枚方市の人口構成と年齢構成は、これに比例した状態になっているかと思う。要するに高齢化が進んでいる。

事務局： 荒木委員からご指摘があったように、アンケートの回答者のほうが枚方市の人口構成よりも分布がいびつになっていると思う。そのあたりを全体の状況として見る時に、どう調整するのかという問題はある。ただこの世代の方々の考えや実情は把握できている資料だと思う。あとは色々なクロス集計や分析があるが、やってみて使えないものも当然ある。施策の中で取り上げる切り口に関しては、精査していきたい。

高見会長： 他にあるか。何月頃に最終の報告ができるのか。

事務局： 全体の審議会での審議がそんなに回数があるわけではないので、この次に計画に盛り込むべき中味の議論をしていただくことになる。ある意味、計画書の形にした詰めの審議をしていただく必要がある。できれば、次回提示する資料はこういう生のものではなく、計画に取り上げる内容での記載としてお示ししてご議論いただきたいと思っている。

荒木委員： 関係団体のアンケート調査だが、団体名の無回答が半分ぐらいある。回収率を上げるためには、団体名を聞かないほうがいいのか。

事務局： スポーツ少年団の方が問1の体育協会の加盟団体に誤って回答している。本来、問1の真中にある「活動種目」の欄を回答してもらわないといけない。今後集計していく段階で調整したいと思っている。

荒木委員： 回収した時点で、どの団体の方から回収したか分かるのか。

事務局： 今現在、スポーツ少年団でまとめて持ってきていただいて、それを委託業者に渡しており、スポーツ少年団の分については分かっている。体育協会についても体育協会から預かってそれを集計してもらっているので分けて集計はできる。関係団体のアンケートに関しては、まだ最終集約ができていない段階である。回答拒否ではない。

荒木委員： 「無回答」というのは、団体名を回答していないということではないのか。

西邨委員： 体育協会としてアンケートは提出しているが、集計の段階で反映していないので「無回答」になっていると思う。

高見会長： 「無回答」ではなく、未集計ということである。

事務局： まだ集計中ということで申し訳ない。

岩井委員： うちのスポーツ少年団は低学年が多い。中には同じチームで体育協会にも加盟しているところがある。そういうところは別々に集計は出てくるのか。どちらかに集約されるのか。

事務局： 別々になる。スポーツ少年団は少年団、体育協会は体育協会のルートでお渡ししているという形になっている。

岩井委員： ということは、スポーツ少年団で回答していて、体育協会でも同様に回答しているのか。

事務局： 質問項目は同じになるが、スポーツ少年団はスポーツ少年団のところに丸を、体育協会は体育協会のところに丸をしていただくという形になっているが、そういうことを想定していなかった。申し訳ない。

高見会長： 重複して回答されている方も中にはいらっしゃることになるのか。

事務局： 関係している組織の違いで、同じ方が2つ回答していることはあり得ると思う。

高見会長： 他にあるか。ひとまず調査についてはこれで締めたい。次に進みたい。

### 3. 推進施策について

高見会長： それでは次第3について、事務局より説明願いたい。

事務局： 資料6に基づき「計画の基本的な考え方」について説明

高見会長： 「計画の基本的な考え方」について、この計画におけるスポーツの定義や基本的視点について説明いただいた。枚方市の推進計画を策定する上でもこれが大きな骨格となるので非常に大切である。ご質問等があればお受けしたい。いかがか。最終的には、市民の方がこの計画を目にされるのか。



事務局：言葉の表現は少し難しいと思う。

高見会長：定義としてはこういうものにしておいて、市民向けにもう少し柔らかくしてはどうか。概要版のようなものは作るのか。

事務局：もちろん概要版は作るが、計画書本体での言葉遣いも基本的に行政計画はできるだけ簡単な言い回しをして、中学生ぐらいが読んで分かるようにという要請を受けている。ここでは専門用語が出ているが、表現に関しては見直す必要があると思っている。

高見会長：他に何かあるか。「スポーツ推進の基本的視点」というところで、基本法の第1章第2条をあげているが、例えば障害者の方も含めて全ての市民という形でいくと、丸の2つ目に「全ての世代の人々」とある。そうではなくて「全ての方々」というニュアンスになると思う。他にあるか。何かあれば、後でまとめて時間を取りたいと思う。それでは「枚方市のスポーツを取り巻く環境」に移りたい。事務局より説明願いたい。

事務局：資料6に基づき「枚方市のスポーツを取り巻く環境」について説明

高見会長：事務局から現状に対して今後の取り組みをどうしていくか、説明があった。ご意見、ご質問等はあるか。

事務局：補足したい。この整理表は、(1)と3ページからの(2)の2段階に分かれている。(1)のほうは現状からこういう方向でやっていこうという中括りレベルの方向性である。その方向性に基づく具体的な施策の体系表の案を(2)に書いている。そういう形で計画が構成されることを念頭に置いて、まだ説明していないが、3ページ以降を参考に見ていただきながらご議論いただきたい。

高見会長：大きな計画の柱を前半で、その後の実施計画のような形で具体的にでてくるということである。何かあるか。

谷口委員：1ページの(1)の3つ目の丸に「高齢者福祉～推進するための体制づくり」とあるが、これは市の環境として体制づくりをしていくということか。

事務局：そうである。むしろ行政側の推進体制である。今様々なセッションがスポーツや健康づくりに取り組んでいる。それをもう少しきちんと連携・協力できるようにしていく必要がある。例えば平成28年度の枚方からだづくりトライアルという事業がある。これは保健センターの事業である。エンジョイトライということで、枚方市駅から中之島駅まで枚方発で歩こうという、交野市と枚方市が連携してウォーキングマップを作ってウォーキングイベントをやっている。これは健康医療都市枚方の連

携事業ということもあり健康部局がやっているが、ウォーキングイベントなのでスポーツイベントと言えなくもない。そういうところですごく混ざる。全体としてどう推進、コーディネートしていくのが結構重要な課題だと思っている。我々は縦割りになってしまいがちなので、そのあたりの連携をどうするのがテーマである。

高見会長： それでは、続きの整理表（２）をご説明いただき、まとめてご質問を受けたいと思う。

事務局： 資料６に基づき整理表（２）について説明  
参考資料に基づき説明

高見会長： （１）（２）（３）（４）という大きな柱があり、それに対する具体的な施策が書かれている。どの柱でも構わないので、ご質問ご指摘等があればお願いしたい。

福島委員： ３ページ（１）「具体的施策（案）」の「◆スポーツを通じた健康づくり」のところについて３～４点お聞きしたい。まず、上から２つ目の丸は、先ほどご紹介いただいた枚方からだづくりトライアルのことか。４つ目の丸「総合型地域スポーツクラブと連携した成人向けスポーツ活動の推進」は、イメージがわからない。こんなイメージというのがあれば、教えていただきたい。一番下に「ひらかた元気くらわんか体操、楽10体操等の普及」とある。まず「くらわんか体操」は、朝のラジオ体操に参加している15～16人のメンバーから、大阪弁バージョンのDVDはあまりにも大阪弁がくどすぎるという意見があった。もう少しさらっとした大阪弁のほうが良かったのではないか。それから「楽10体操の普及」とあるが、これはスポーツクラブに行くようなイメージである。本当に普及が図れるのか気になっている。この前は吹田市の話ばかりして申し訳なかったが、８月27日の読売新聞に和歌山大学と和歌山市が共同開発した「和大ビクス」が本とCDで発売されている。ステップ体操のようなもので、軽い体操でどこでもできる。例えば体育館に集まってする必要もないし、マンション等の高齢化が進む中で集会所を使ってそういうことをすることによって、マンション内のコミュニケーションが図れる。そういうものを紹介していくのはどうか。ITを活用した事業について参考資料でいただいたが、これは市民が希望すれば全て大丈夫なのか。

高見会長： ３つ目のご意見については、これから進めていく上でご意見をいただければと思う。３点について事務局から回答願いたい。

事務局： まず前提としてご理解いただきたいが、整理表（２）の具体的施策（案）

は、市として計画の中にこの具体的施策で書き込むという最終調整はまだできていない。逆に言えば、どんな取り組みをしていけばいいのか、既存の取り組みや他市の例も含めて、イメージ出しのためにあげたものである。最終的には市での内部調整も含めて、計画の中でどのような施策に取り組んでいくのかという考え方については、次回以降お示したいと思っている。従って、具体的には先ほどのトライアル事業の話になると思う。この事業は、既にされている事業で広報等にも載せている。あと「総合型地域スポーツクラブと連携した成人向けスポーツ活動の推進」ができるのかどうかは、総合型地域スポーツクラブをどうするのかも含めて、まだまだ議論が必要なところだと思う。ITを活用した事業の件だが、これはどちらかと言うと生活習慣病抑制に向けた環境づくりということで、企業側に絞られた事業内容である。あえて今ご紹介したのは、身に付けることができる端末を付けて、自分の生活や、逆にその中にスポーツ行動を入れていかないと意味がないと思うが、そういうもので自分の身体の状態の変化等を把握できることがインセンティブになり、逆に言えば健康増進のためのスポーツの取り組みの一環になるのではないかということで、「◆スポーツを通じた健康づくり」の上から2番目の「ウォーキングなど手軽なスポーツを楽しみながら継続できるように、マップなどのツール」がそのひとつとして可能性があるものではないかと感じている。具体的にどういう方に配布するのかはまだ承知していない。実態調査でもウォーキングが一番されている方が多い。これを進めていく仕掛け、また会長からも他市の例も含めてご紹介いただければと思うが、そういうことをやっていくこともひとつ大きな方向性ではないかと考えている。

高見会長： 他にあるか。

浜田委員： 「◆スポーツを通じた健康づくり」は、ほとんど福祉部署に関係することが多い。福祉部署は先ほどもおっしゃっていたが、縦割りのイメージが強い。連携・協力ができた場合でも、地域には民生委員や福祉委員がある。そこを通じてどういう形にしていくのかを考える必要がある。良い案だが、地域にとってはすごく大変なことである。各部署である程度方向性を決めてもらわないと、地域に投げてこられても困る。こういうことはもう少しデリケートに扱ってもらわないと、やるほうの地域は大変である。もう1点は「◆地域スポーツの充実」に「コミュニティ協議会」とある。一番気になるのは45校区のうち半分ぐらいが区民体育祭

をしているが、残りの半分は校区によっては秋の文化会をしたりしている。本来なら45校区全部が区民体育祭をすれば一番スポーツ的には良いと思うが、予算的なこともある。それから、スポーツ推進委員の情報になかなか得られない。色々なスポーツを地域でやっている校区もあるようだが、もう少し内容を濃くして色々な活動を地域に持ってくるようにして欲しい。

齊藤委員：平成26、27年度の2年間は、地域で活動するための全員が集まる会議ができなかった。それまでは、会議終了後にニュースポーツの紹介をして、それを地域に持って帰って披露してもらうという形を取っていた。

浜田委員：5～6年前まではあった。

齊藤委員：それまではニュースポーツを取り入れて講習会をして、それを地域に持って帰ってもらうことをしていたが、この2年は何もできていない。また今後やるようにしている。

事務局：先ほど浜田委員から施設についての質問をいただいていた。それに関連して堀口委員からスポーツ資源の充実と活用についての意見をいただいている。それもまとめて紹介したい。

#### ○堀口委員からの意見を紹介

先ほど浜田委員からあったように、行政は各部署がそれぞれの課題設定をして地域にお願いしていることが多いと思う。介護保険の事業で介護予防が重要視されてきている中で、そういう動きも加速化すると思う。このスポーツ推進計画は、教育委員会のスポーツ振興セクションだけのものではなく、スポーツというアプローチで取り組む施策を横断的にカバーして行って、実際に施策を展開する時も連携協力・調整がきちんとできるような体制を作っていないと、地域で主催される方々からすれば混乱してしまう。そのあたりは大きな課題だと思っている。方向性をきちんと示していく必要があると思う。スポーツ推進委員の活動の活性化についても同様だと思う。冒頭、新規のスポーツ施設の建設計画があるのかという話があったが、野球の専用スタジアム以外で新たなスポーツ施設の建設計画は現在市ではない。全体として競技人口を含めて人口減少時代に入って行く中で、新規のスポーツ施設をどれだけつくるのか、行政内部で確認していくのは困難な局面になると思っている。我々としてもスポーツ環境が十分であるとは考えていない。枚方市のスポーツの環境整備は、3つの柱でやっている。ひとつは市自体のスポーツ施設を充実していくということで、総合スポーツ体育館から始まり、かなりの

施設整備を進めてきた。もうひとつは民間スポーツ施設の開放である。これは将来に向けて大きな問題を持っている。企業のスポーツ支援がどんどん縮小方向になっている。この数年間でも、企業スポーツ施設が廃止されているパターンが出てきている。総合スポーツの活動拠点になっているパナソニックの施設も、企業の意向次第というところがある。そういうものが変わってきた時にどうするのかという問題は残っていると思う。あともうひとつの地域資源の活用は学校施設である。学校教育に使用するのが本来の目的であるが、地域のための施設でもあるので、その開放をどうするのか。もうひとつは具体的施策の案の中にもあるが、既存の公共施設が今後老朽化してくる。改修・改良がテーマになってくるのが当然ある。その時にそれをどうするのか考えていく必要がある。

浜田委員： 学校施設を使っているが、管理の総責任者がコミュニティに回ってきた。

事務局： 多分おっしゃっているのは、開放委員会の話だと思う。今までも学校施設を活用したい団体が色々あって、その利用調整をする中で地域の方々、或いは団体の方を含めた委員会の中で、特に土日の利用に関しては調整していただいていたと思う。

浜田委員： 今まではハンコを押したことはなかった。

齊藤委員： スポーツ推進委員が主だって学校開放の運営委員会を行っている。その中で時間調整や壊れた施設の修理依頼等をやっている。ほとんどのスポーツ推進委員が関わっているが、中には来ていない校区もある。

事務局： 地域にお願いしているのは利用調整である。学校施設開放に関する課題で言うと基本的には変わっていない。あと平日の夕方から夜の利用調整についての問題は個別に課題として残っている。

浜田委員： 5時以降になると扉を閉める。

齊藤委員： それも本来は学校がしないといけないが、スポーツ推進委員がほとんどやっていると思う。

西邨委員： (2) 「スポーツを担う次世代の育成」の中から体育協会から幾つかお願いと言うか、質問をしたい。回答については、今日の会議は12時までだと思うので、後日か次回にいただきたい。まず、この中に総合型地域スポーツクラブの役割が入っていない。今現在、子ども達が一生懸命頑張ってくれている。ここに役割として入らないのか。リオオリンピックが終わり、パラリンピック、或いは2019年にはワールドカップ開催、2020年には東京オリンピック・パラリンピック、2021年にはワールドマス

ターズゲームというビッグゲームが、ここ5年の間に続く。そういう大きな行事に対する具体的な取り組みは出てこないのか。「ラグビーのまち枚方」ということを謳われていたと思うが、どこにも出てこない。それについてもご回答いただきたい。スポーツ指導者としてスポーツ推進委員、スポーツ少年団の方、私どもがやっているスポーツサポーターズバンク等の充実に向けて、市の公認のスポーツ指導者の位置付けはないのか、考えていただきたい。ここ近年、子ども達の利用が増えている野外活動センターが枚方市にはある。センターを利用した子ども達の育成は項目にあがってこないのか。まだ何点かあるが、後日回答をいただければと思う。

事務局： 回答と言うより、そういうご意見も踏まえて案を作成していきたい。

佐藤委員： 障害者の福祉の関係が多くて、私が出している限りでは卓球とフライングディスクは福祉の関係から援助をいただいている現状がある。この委員会を出すものは、市民から見れば良いことを言っている。本当にできるのか。現状で障害者を理解している市民はどれだけいるのか。スポーツ推進委員の話も出たが、障害者に対する理解の勉強をされて委員になっているのか。もっと底辺のところの具体的な案をここにのせないといけない枚方の現状があるのではないのか。ここに書かれていることは夢だが、そこにいくまでに枚方が何をやるかという福祉の関係の考え方を検討課題にしていきたい。

荒木委員： 案ということなので、これから完成させるのは大変だと思う。既存の事業なのか、これから考えていくものなのか、全てイメージで出されている感じがする。具体的にもう少し見える形にしていきたい。最後に1点、施設についての議論があったが、市民が実際にスポーツを始めたのは公園・河川敷が多い。公園・河川敷の整備を是非考えていただきたい。

谷口委員： この計画は何年スパンぐらいか。

事務局： 基本的な計画の枠組みに関しては次回お示ししたいと思う。基本的な方向性を示して、具体的にどういう事業をやっていくのかは色々な予算編成も含めて出てくる。毎年度この体系に基づいた具体的なものをお示しして、継続的に検証していただく仕組みを考えている。

谷口委員： やりもしないことを書いても仕方がない。例えば「医療機関と連携した事業の実施」と書いてあればしないといけない。それと「ニュースポーツの研究」までは分かるが「開発」というと、大変である。これもで

きるのか。できないことは書かないほうがいい。

高見会長： ありがとうございます。本日の案件は以上で終了したい。次回審議会は、今回の議論を事務局のほうでまとめていただき、資料を元に再度議論いただくことに加え、計画全体の枠組みについて議論したいと思う。今回と同様に事前に事務局から資料の提供があるかと思うが、各委員の専門的立場からご意見をいただきたいと思う。

#### 4. その他

高見会長： 次第4について事務局から何かあるか。

事務局： 次回審議会の日程を本日決定していただきたいと考えている。事務局案として10月21日金曜日午後2時から考えている。

高見会長： 出席が無理な委員があれば、事務局からフォローさせていただくという事で、できれば事務局案を進めたい。

事務局： 少し時間があくが、行政内部の調整が必要なので申し訳ない。

高見会長： それでは、次回審議会は10月21日金曜日の午後2時から開催したいと思う。会場については、事務局から各委員へご連絡する。これをもって平成28年度第3回枚方市スポーツ審議会を閉会したい。どうもありがとうございました。